

(別記様式)

令和4年度 京都府立舞鶴支援学校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン)

(計画段階 ・ 中間評価 ・ 実施段階)

学校経営方針 (中期経営目標)	令和4年度 学校経営の重点 (短期経営目標)	令和4年度 学校経営計画 成果と課題
<p>「よく学び、より鍛え、よりよく挑む」児童生徒の育成のため、目指す学校像の実現を図る。</p> <p>〔目指す学校像〕</p> <ul style="list-style-type: none">一人一人の教育的ニーズに応じて先導的で特色ある教育活動を行う特別支援学校児童生徒の心と体の健康と安定を図り、安全で安心して過ごせる特別支援学校保護者と児童生徒一人一人の願いの実現を目指す特別支援学校専門性を生かし、地域の特別支援教育のセンター的役割を果たす特別支援学校福祉・医療・労働等の関係機関との密接な連携のもと、教育課題に積極的に取り組む特別支援学校家庭や地域社会に開かれ、信頼される特別支援学校	<ol style="list-style-type: none">学習指導要領の趣旨に基づき、12年間の系統性のある教育課程編成の検討を行うとともに、ICTを活用した学習指導の充実、障害特性に応じた指導の充実等、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりをより一層推進する。地域の関係機関との連携を強化し、体験的な学習や職場体験・実習の機会拡大、職業教育の推進等、キャリア教育・就労支援等の充実を図る。コミュニティ・スクールの推進等により、地域とつながり、社会と目標を共有し、社会に開かれた教育課程のもと、児童生徒に「生きる力」や「働く意欲」を育む。さらに、交流及び共同学習の新たな展開等を通じて、児童生徒の力や可能性等を積極的に広く地域へ発信することにより理解啓発を進め、個に応じた社会参加・社会貢献の機会の充実を目指す。「トータルサポートセンター (TSC)」は、関係機関及び他の地域支援センター等と連携し、地域の相談支援力の向上に努める。教職員の働き方を見直し、心身共に健康で、意欲と能力を十分発揮できるように業務改善を進める。教職員の人権意識、コンプライアンス意識を一層高め、教職への情熱、豊かな人間性、高い専門性を基盤とした指導力のある人材を育成するとともに府の示す指標をもとに各ライフステージに応じた目標をもちながら日々実践する。事務部は、学校運営に関わる事務の企画、立案及び連絡調整を行い、安心安全で深い学びを実現するべく、効果的な学校運営が行われるよう努める。	<ol style="list-style-type: none">「つけたい力を明確にした授業づくり～読もう・使おう学習指導要領！活用しようICT！～」を研究主題として、学習指導要領に基づきながらICTを活用した授業づくりに取り組むことができた。研究授業や公開授業だけでなく、話題提供授業といった教員相互で学び合える機会を多く設定することで、相互に高め合えることができた。コロナ禍の制限が徐々に緩和されつつある中で、「ふれあい・心のステーション」の実施や地域での製品販売会を開催することができ、体験的な学習の機会が回復し、キャリア教育・就労支援等が充実してきた。学校運営協議会を計画どおり3回開催し、学校と地域がWin-Winの関係を築いていくことを確認した。今後は、「地域お宝マップ」を地域資源の活用につなげ、地域と密につながりながら「生きる力」の育成をめざす。交流及び共同学習については、オンラインでの交流だけでなく、コロナ前に実施していた交流に徐々に戻すことができてきた。舞鶴市教育委員会や舞鶴市乳幼児教育センターと連携し、合同研修会の企画・運営を行い、地域の特別支援教育コーディネーター等の支援力向上に貢献することができた。NO残業デーやNO会議デーの日には、すべての教職員が退勤したが、日常的に時間外に超過勤務をしている教職員が多かった。特定の教職員の超過勤務が顕著となっており、業務の平準化に取り組んでいく必要がある。人権についての全体研修会を開催し、人権意識を深化させ指導力の向上に努めた。職員会議の中で小グループに分かれて、「セクシャル・ハラスメント」について意見を述べ合い、客観視して考えることができた。様々な部署や担当と連携し、連絡調整を行うことで、効果的な学校運営が行われた。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	教育目標実現のため、機能的な分掌組織体制の改善に向けた運営を行う。	企画運営会議で、各分掌や委員会等、組織運営体制を点検し、機能的・効率的な運営を図る。	A	B	B	<p>・学校戦略会議を新設し、各会議や校務分掌などと密に連携し学校における様々な事案に対応するなど喫緊の課題や新たな取組等について戦略的なねらいをもって提案したり、検討したりすることができた。</p> <p>また、研究部や教務部と密に連携を取りながら、研究活動の充実を図ったり教員のスキルアップを目的とした研修計画を立てたりすることができた。</p> <p>・養護教諭や栄養教諭、生徒指導部長や保健部長、教務部長など各分野の長が構成メンバーとなっている学校危機管理会議が、校内の様々な事案・直面する課題（ICT・感染症）に機動的・タイムリーに対応することができ、安心安全な学校環境の確立につながった。</p> <p>無告知で土砂災害を想定した避難訓練をするなど、より実践的な訓練を実施することができた。</p> <p>・NO会議デーやNO残業デーなど総退勤日については、早く退勤する様子が見られた。独自の取組を進める学部もあった。総退勤日以外の日については超過勤務をしている職員が複数いるのが実態であった。</p> <p>・業務量が関係しているのか、業務量に関係なく総実務時間が多くなっているのかということ、今後分析していく必要がある。今後、業務量の平準化等を進めていく必要がある。</p> <p>・学校運営協議委員からの評価だけでなく、保護者アンケート等からの評価も教育活動の充実と改善の参考にすることができた。</p> <p>・学校運営協議会の中で、「生涯スポーツ」や「キャリア教育」等の学校としての新たな取組について発信する中で、様々な立場から助言を得ることができ、本校の教育実践の充実につなげることができた。熟議の中で、テーマに沿った充実した御意見をいただくことができた。</p>
		学習指導要領の趣旨に基づき、授業づくり及び校内研修等による研究推進により成果と課題を明確にし、本校の教育課程編成に向けた検討を行う。	B			
	学校の安全管理を徹底し、安心・安全な学校作りを進める。	安全マニュアルについて周知し、緊急時の対応がより適切にできるようにする。	A	A		
		地震、火災、土砂災害を想定した避難訓練を実践的に行う。	A			
		施設設備の定期点検を行う。	A			
	働き方改革の実現に向けた取組を進める。	一人一人が勤務時間を意識した働き方を実践できるよう、職場としての取組や環境改善を推進する。	B	B		
		総実務時間の短縮、分掌の業務量の平準化等学校業務改善及び勤務負担軽減の取組を進める。	B			
	学校評価を実施し、学校運営や教育活動の実施状況を点検・評価し、教育活動の充実と改善に努める。	中間評価と総括評価を行い、学校運営の点検、改善を図る。	B	B		
		外部評価（保護者・学校運営協議委員等からの評価）を行い、学校運営の活性化や見直しを図る。	A			
	学校運営協議会による地域とともにある学校経営を進める。	学校運営協議会を複数回開催し、助言を得て学校運営の活性化や見直しを図る。	A	A		

教育課程の編成と実施	「つきたい力（健康な心身・生活に生きる確かな力・豊かな人間性と社会性）」を踏まえた教育課程を編成し、実施する。	学習指導要領をもとに何をどのように学ぶのかについて検討し授業改善を図りながらよりよい教育課程の編成を目指す。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究等で学習指導要領をもとに授業改善に取り組んだ。また、個々の児童生徒の「つきたい力」について各学部で検討することができた。研究部とも連携しながら今後も継続して12年間を見通した「つきたい力表」の作成に向けて取り組んでいきたい。 ・個別の教育支援計画を保護者と確認し、全家庭に配付して目標や教育内容を共有することができた。 ・学校の取組をこまめに家庭に連絡し、基本的な生活習慣や安定した生活リズムの確立に努めた。夜更かしなどの生活習慣の改善が難しいケースもあり、今後も家庭と連携を密にし、指導を継続していく。 ・日常生活の指導や自立活動等でできるようになったことを家庭でもできるようにし、汎化を図ることができた。（小学部） ・自分で振り返るためのプリント等を活用して、生活リズムを整えたり、身体を動かす習慣を身に付けたりすることができた。手洗いや身だしなみ、整理整頓なども自ら意識する力が付いてきている。（中学部） ・職業科や生活単元学習の時間に校内の配付物の印刷や地域への学校だより配達、資源回収などに取り組み、様々なスキルを身に付けることができた。（高等部） ・本人の適性等や進路先について保護者と共通認識をもつまでに時間がかかることがあるので、今後も1，2年次から情報提供等の働きかけを行う。（高等部） ・部活動や学部集会など多様な集団の中での活動を通して互いの個性を理解し、協力する姿が見られた。
		保護者や他機関との連携をより一層進めるために個別の教育支援計画の活用を図る。	B			
		「つきたい力表」の見直しを行い、児童生徒の丁寧なアセスメントや指導に生かす。	B			
		生活リズムを整えるとともに、身体の学習などを通して健康維持のための取組を充実させる。（健康な心身）	B	B		
		家庭と連携を図りながら、「日常生活の指導」等を通して生活習慣を身に付ける。（健康な心身）	A			
		働く力や生活する力の基礎となる取組を進める。 （小学部）（生活に生きる確かな力）	A	A		
		体験的な学習を通して、働く力や生活する力を高めるための指導を充実させる。（中学部）（生活に生きる確かな力）	A			
		作業学習や進路学習などを通して、進路希望の実現及び生活の質を高めるための指導を重点化して進める。（高等部）（生活に生きる確かな力）	A			
集団の中で役割を果たしたり、協力したりして、達成感を持てる活動を充実させる。（豊かな人間性と社会性）	A	A				
文書情報管	個人情報の適切な管理を行う。	個人情報にかかわる書類や電子データについて適切に管理し、情報の保護に努める。	B	B	B	個人情報に関わるデータ等を適切に管理できるよう努めた。

生徒指導	児童生徒の基本的な生活習慣を確立し、主体性、協調性、社会性を養うために、全教職員が総力を挙げて指導にあたる。	学校生活のルールやマナーが身につくように、教育活動全体の中で指導を行う。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に学校生活のルールを全校職員で確認した。児童、生徒の指導に関して部会等で適宜共通確認を行い、一貫した指導ができた。 ・児童、生徒の実態に合わせて、いじめ防止基本方針に則り指導を行った。本校の案件を把握し、現状確認、解決をした。児童、生徒の様子を要観察し、今後も適宜指導を行っていく。 ・高等部委員会活動では、各委員会の特色に応じた多様な活動が設定できた。また、コロナ禍前に行っていたレクリエーション大会を、感染症対策を講じながら計画できた委員会もあった。2月中に実施予定である。 ・感染症対策を行いながら交通安全教室が実施できた。歩行者用の信号機を作成し、実際の場面に近い活動が設定できた。 ・舞鶴警察署と連携し、高等部 CD グループを対象とした薬物乱用防止教室を実施できた。 ・京都府警察と連携し、スマホ安全使用教室を実施した。タブレット端末を使用し SNS トラブルを疑似体験する学習内容で、生徒が自分事として課題に向き合い考えることができた。 ・不審者対応として、全職員に名札と笛の着用を周知した。着用率も高く、職員の危機意識向上につながった。一方で、名札の紐が短いなどの課題が上がり、長さの調節が必要であった。
		児童生徒の生徒指導上の事象について、課題を教職員間で共有し、保護者や地域及び関係機関と連携を図りながら迅速に対応する。	B			
		府の方針に基づき、本校のいじめ防止基本方針を児童生徒の実態に合わせて改訂し、いじめ防止及びより良い人間関係作りに努める。	B			
		生徒の主体性・協調性・社会性を養うために、高等部委員会活動の充実化を図る。	B			
安全・防災教育を推進し、児童生徒の実態に合わせた指導の充実を図る。	児童生徒の実態に合わせた、交通安全教室、薬物乱用防止教室等を実施する。	A	A			
	笛や名札の携帯について注意喚起を行い、不審者対応意識の向上を図る。	A				
人権教育	人権教育について、教職員の認識を深め指導力の向上を図る。	人権研修会を実施することで、教職員の人権意識を高め、教育活動全体を通して人権に関わる取組を行う。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権担当教員を中心に、研修会等での学びを部会で交流し人権課題に対する共通理解を図ることができた。 ・「共生社会を目指して～子どもたち1人ひとりを意識した心揺さぶる授業の創造について～」をテーマに、全教職員を対象とした人権研修会を、1月に実施することができた。 ・同和教育をテーマにした研修の引き継ぎがなく、生徒指導部として研修を設定できなかった。業務引継資料に明記する。

進路指導	小学部から高等部までの進路指導の充実を図る。	12年間を見通した進路指導計画に基づき、系統的な指導をする。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・12年間を見通した系統的な進路指導について、次年度以降の取り組み方について教育課程検討会議等で引き続き検討することが必要である。 ・福祉事業所フェアを通して、家庭に卒業後の進路を意識してもらう機会をもつことができた。 ・福祉事業所フェアで新たに参加していただいた事業所もあり、最新の情報を提供することができた。 ・感染症の対策を講じた中で、希望に沿った実習を計画・実施することができた。 ・関係機関と連携し、実態に応じた進路先や住居模索することができた。 ・進路協議会を例年通り実施でき、情報共有できたことを元に実習を計画できた。 ・関係機関と連携し、卒業生の状況に応じてケース会議への参加や必要な支援を行った。 ・新高3生の進路手順等についての説明会を開き、進路指導の見直しにつなげた。
		児童・生徒及び保護者の進路希望を丁寧に聞き取り、家庭と連携しながら日々の指導・支援を行う。	A			
		福祉事業所フェア・進路便り「進路まっぷ」等により情報提供を行う。	A			
	高等部3年生の進路希望の実現を図る。	生徒及び保護者との進路相談に基づいた実習を行い、生徒自ら進路希望の実現ができるように支援する。	B	A		
情報収集に努め、進路先及び入所施設・グループホーム等の住まいの開拓に取り組む。	A					
進路連携会議を開催し、ハローワーク、行政、生活支援センター、福祉施設等と連携を図る。	A					
卒業生のアフターケアに努める。	卒業生の状況把握に努め、必要に応じて支援を行う。	B	B			
研究・研修	研究主題「つけたいを明確にした授業づくり～読もう・使おう学習指導要領！活用しようICT！～」のもと、授業研究と教育課程編成の検討を進める。	学習指導要領を丁寧に読み・活用し、主体的・対話的で深い学びの実現につながる授業づくりについての授業研究を進める。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回学部研究会を設定し、各グループで行った。 ・講座や研修会の案内は随時回覧、呼びかけをし情報を発信に努めている。・話題提供授業を5月に実施し、授業づくりへの疑問等を話題に、教員相互で学び合える機会を作った。・研究だよりを毎月発行し、情報提供に努めた。・学部研の進め方を学部で統一したり、一人ひとりが研究に参加している実感が持てる工夫をしたりして、学部研の充実を図っている。・公開授業週間を3回作り、授業の中でつけたいを明確にした授業を実践した。また、参観者シートでも、参観者に授業の中で目指す児童生徒の姿や達成できたこと、対象児童生徒が本授業でつけたいを記入してもらった。・2学期報告会では、ワールドカフェを全体で実施し、授業についての意見交流の場となった。
		学部研究会を計画的に行い、系統性のある教育課程編成の検討を進める。	B			
	外部専門機関との連携、様々な事業の活用、相互研修等、様々な形式で研修会の充実を図る。	校内研修会や授業参観等を通して、教員相互が学び合い、高め合う環境づくりを進める。	A	B		
		事例研修会や講演会、出張資料回覧等を通して、教職員の専門性や指導力を高める。	B	B		
		P T Aと連携して、卒業後の生活を考えていくための研修の機会を持つ。				

	研究・研修に関する情報・資料・文献等を収集・提供する。	教職員回覧や資料・文献閲覧場所を整備して、自己研修を進める。	A	A		
健康安全 教育	計画的な健康安全教育を推進する。	保健教育・性教育の年間指導計画を立て、各学級やグループで指導を進める。	B		B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級・グループごとに年間指導計画を立て、計画に基づいて指導を進めることができた。また、計画を教職員間で回覧して共有することができたが、どれだけ活用されているかについては、今後も検討をしていく必要がある。 ・個別の課題に沿って保健指導を進めることができた。 ・毎月の部会で各学部の児童生徒の様子を交流して健康状態について共有することができた。 ・職員全員で校内の消毒等に取り組み、感染症予防に努めることができた。また、各機関からの情報を共有したり、各部署からの意見を集約し対応を検討したりすることができた。 ・毎月ヒヤリハットの回覧をし、全校で共有して安全に努めることができた。 ・コロナウイルス感染症の予防のために、マスクの着用やこまめに手洗い・消毒をすること等の指導を徹底することができた。 ・感染症予防の研修会を開き、コロナウイルスの特徴や感染症に対する基本的な予防対策等について職員全員で学ぶことができた。 ・性教育教材について、分校からの教材を展示し、授業作りの参考にしてもらうことができた。 ・安全点検を毎月行い、修理が必要な場所・危険な場所を挙げて改善し、環境美化に努めることができた。学期初めには全職員による校内清掃、長期休業中には掃除場所のモップの洗濯等を行うことができた。今後も日常的に校内の整理整頓・清潔に保つことを心がけていく。 ・今年度実施できなかった作業棟カーテンの洗濯を次年度以降実施していく。
	健康に関する一人一人のニーズを把握し、日常場面で指導を進める。	保健室と学部及び関係分掌が連携し、感染症予防に取り組むとともに、心や体の健康について指導を進める。	B			
	校内の環境美化を進め、望ましい環境作りを行う。	日常的に使用教室等の清掃や整理整頓、清掃指導を行うとともに、定期的に安全点検を行うことで、望ましい学習環境作りに努める。	B			

食に関する指導	安全に給食その他の摂食を伴う指導が実施できるように、指導の充実や環境の整備を図る。	「食に関する指導のガイドブック」を活用し、安全管理（嚥下調整食・アレルギー対応食等）や衛生管理、新型コロナウイルス感染症対策の周知徹底を図り、安全に食に関する指導を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・4月の校内研修で「食に関する指導のガイドブック」を配付し、安全管理や衛生管理の周知を図った。新型コロナウイルス感染症対策のため、給食前の机や配膳台の消毒について、統一したやり方を決めて全校におろすことができた。また、感染状況を鑑み、段階的にワゴンへの詰め込みを見直し実施することができた。 ・社会状況を見極め、感染症対策に配慮して学部毎に全校災害時想定給食に取り組むことができた。各学部の実態に応じた手立て等を取り、スムーズに行うことができた。 ・地域とつながった食材を取り入れた献立や、季節の行事を意識した献立、「野菜の日の取組」「和食の日の取組」「給食月間の取組」などを実施し、食に関する指導の充実を図り、情報発信を行うことができた。 ・調理室等の教材・教具点検や消耗品の管理を行い、学習環境を整えた。 ・京特研などを通じて他校との情報共有を図り、夏季研究大会での動画配信について、日々の指導に生かしてもらうよう視聴を呼びかけることができた。
		社会状況や感染症対策に配慮し、全校災害時想定給食に向けて取組を進める。	A		
		児童生徒が地域とのつながりや季節の行事等を意識できるよう、食に関する指導の充実を図ったり、情報発信を行ったりする。	A		
		特別教室の安全点検や衛生管理を行い、学習環境を整える。	B		
		府内支援学校の指導者と情報共有や研修会をすることで、教職員の指導力向上を図る。	B		
地域連携	地域とつながり、地域に貢献する活動を推進することにより、学校に対する地域の理解と信頼を高める。	地域との交流及び、地域の人材や資源の提案・活用を推進するとともに、より社会に開かれた教育課程の充実を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力溢れる地域の人材・場所を「地域お宝マップ」としてまとめ、発信することができた。それを活用して地域の方に来てもらったり、地域の方からできることを提案していただいたりと、昨年度より双方向の交流ができた。（伝承遊び、地域清掃、総合等） ・地域の人材・場所をリニューアルし、共有していくことが大切である。地域の方で協力してくださる方がとても多いので、是非できる範囲で交流を検討してもらいたい。 ・太鼓組の活動として、オープンスクール、西舞鶴高等学校交流会、中丹学校文化芸術祭、西市民プラザ製品販売会で和太鼓演奏を披露することができ、舞鶴支援学校高等部の取組を地域に発信することができた。グラウンドゴルフは地域清掃と合わせて地域の方と
		ボランティア活動や学校行事等の機会を通して、地域に貢献する活動を推進する。	B		
		和太鼓の演奏披露やグラウンドゴルフの取組を通して、地域での活動を推進する。	A		
	近隣の学校との交流および共同学習を推進する中で、社	個に応じた居住地校との交流及び共同学習を進める。	B	B	

	会性や思いやりの心、豊かな人間性の育成を図る。	小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を通して、理解啓発を進める。	A			<p>続けて交流できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽活性化事業としてプロのアーティストの方を招いてコラボ演奏ができ、中学部と高等部で有意義な交流ができた。また、活動の様子や本校の製品や作品などをアーティストのイベントの中で取り上げていただき、地域の方に発信することができた。 ・小学校の居住地校交流は、本人、保護者の思いを大切にし、担任同士連絡を取り合って数校直接交流を実施することができた。その他は、作品交流等、間接的な交流をおこなった。 ・池内小学校との交流では、年度当初に立てた計画通り進められた。また後半は直接交流もできた。共同学習のねらいを両校で共有しながら、進めていくことができたので、今後も単発の交流ではなく、無理のない継続的な交流及び共同学習をしていく。 ・中学校の居住地校交流では作品交流を行い、居住地の学校の文化祭などで展示してもらい、舞鶴支援学校中学部の作品を発信することができた。生徒会からお礼のカードをいただいた。今後とも繋がりを深めていきたい。 ・西舞鶴高等学校とはリモートでの交流になったが、クイズを出し合ってお互いの学校について知る機会となった。また、西高書道部と支援学校太鼓組によるパフォーマンスを鑑賞し合い、お互いの活動について理解を深めることができた。 ・モスバーガー・舞鶴赤十字病院、ハローワーク、西舞鶴高等学校にて、年度当初の予定通り作品の展示をさせてもらうことができた。また、作品のローテーションも1ヶ月ごとに行うことができた。
	地域での作品展に出展し、本校の教育への理解を図るとともに、児童生徒の表現・創造意欲の育成と個性を伸ばす。	児童生徒の作品を地域の公共施設や企業等で展示するとともに、地域の文化行事等へ積極的に出展する。	B	B		
広報活動	地域とつながり、地域に貢献する学校として、学校だよりや学校ホームページなどにより、本校教育の特色を積極	本校教育の取組や児童生徒の活躍を伝える学校だよりを作成し、地域社会に配付する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全校行事や学部行事、日々の授業紹介、地域とつながる取組、職員研修などの様子を学校だよりや学校ホームページを用いて、計画的に発信できた。 ・高等部 B グループの職業で折り作業や池内地域への配達を担ってもらうことで、生徒たちも地域社会へ
		学校ホームページの作成や更新を、計画のもと適切に行う。	A			

	的に発信し本校への理解が深まるようにする。	学校ホームページが円滑に運営、閲覧できるよう適切に管理する。	A			の発信を意識することができた。広報部員の業務軽減にもなった。 ・ホームページのトップページを用いて、学校行事などのお知らせを発信できた。 ・行事等の様子を中心にホームページのトピックスでタイムリーに発信することができた。 ・著作権について職員研修を行った。 ・特に児童生徒の写真掲載については広報部内だけでなく担任にも協力してもらい、複数の目で確認してプライバシー保護に努めることができた。
		著作権や情報モラル、児童生徒のプライバシー保護に努め、責任を持って広報活動を行う。	A			
情報・視聴覚・図書館教育	学校の情報化を推進する。教職員の情報機器活用能力を高める取組を行う。	研修や出前授業を通して、教職員のICT・ATの活用等、情報教育に関する意識や技術の向上を図り、校務や教育活動に生かせるようにする。	A	B	B	○研修（全校・希望）を行い、学校全体のICT・AT活用を促進することができた。また、研修後の感想から次の研修内容を考えることができた。研修後にPCやタブレットに関する質問をしてくる指導者が増えた。○ICT通信を発行することで教職員に情報帆提供をすることができた。○「teams」を職員会議で使用したり、長期休養中の児童生徒の学びを止めない指導のために使用することができた。分教室の指導者もteamsを使うことで会議に参加することができた。他会議でも使用することができた。○新HPの枠を作ることができた。○新しい掲示板と特別教室の貸出票を作ることができた。○タブレット端末内のアプリの精選をするために、指導者にアンケートとった。使用していないアプリの整理をした。●個別最適化したタブレット端末の仕様ができていない。指導者からのニーズを聞き取り児童生徒に合わせたタブレット端末にしていく。○●schoolfile内のデータが紛失することがあった。また、バックアップが取れていないことが分かった。→業者と連携してバックアップの再設定をすることができた。○「給料日にはウイルスバスターの検索を！」を標語にして全校周知をすることができた。○生徒指導部と資料の共有をした。○ICT機器を利用して遠隔や分散化した研修や会議を設定することができた。これまでは情報教育部で準備してきたが、他分掌等の主催者が自分達でできるための研修を来年度計画していく。○部内で貸し出し簿の点検
		「GIGAスクール構想」に基づいて、一人一台タブレットを配布し個別最適化した学習を進めていく。	A			
		イントラネットの活用により、各種情報が適切に共有、活用されるようにする。	B			
		ネットワークのセキュリティポリシーについて、教職員に周知徹底する。	B			
		児童生徒の発達段階に応じた、情報モラル教育の推進を図る。	B			
	視聴覚機器を適切に管理する。	視聴覚機器の利用方法について、教職員に研修を行う。	A	B		
		貸し出し簿を作成し、機器を適切に管理する。	B			
	児童生徒が読書に親しむ機会を提供する。図書室の施設、設備その他の諸条件の整備・充実に努める。	児童生徒の実態に応じた選書を行い、図書の充実を図るとともに、本に触れる機会を提供する。	B	B		
		児童生徒が利用しやすいように図書室の環境整備をする。	B			

						を約1週間毎に確認することができた。●点検中に借りられている機器の貸し出し簿を確認すると無記入で借りられていることがまだあった。引き続き、貸し出し簿への記入を促していく。○ブックトークは各学部で実施することができ、本に親しむ機会を提供することができた。○古い本や使用頻度の低い本の整理をすることができた。●新刊図書コーナーを設置したが、戻すときに違う場所に戻されることが多くあり、コーナーを保つことができなかった。→展示場所や方法の検討が必要。●府立図書館の電子書籍の利用準備が今年度には間に合わなかったため、来年度から使用できるようにする。
センター的役割	関係機関との連携を強化し、ニーズに基づいた相談・支援を行い、地域の支援力の向上につながる活動を行う。	適切なアセスメントと具体的な支援につながる相談を行う。また、相談後の状況の把握に努め、継続した相談を行う。	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季研修講座（8月3日実施）では、80を超える小中高校・園とつながり、合計300名以上の教育関係者が受講した。「目の前の子どもが何に対してどのように困っているのかという視点をもって今後接していこうと思います」「アセスメントの重要性を改めて認識した。」といった感想があった。大きな不具合なく、リモートでの研修を開催することができた。 ・相談内容が近年特に多様化しており、アセスメントのための聴取を行ったり、ケースに関してどのように進めていくことが良いのかということ巡回相談前に特別支援教育コーディネーターと密に連携したりするなど、丁寧にアセスメントを行うことでニーズに応じた支援につなげることができた。 ・通級指導教室の担当者と協働した巡回教育相談を実施し、ケースに応じて、巡回相談チームのメンバーと連携した支援を強化することができた。 ・舞鶴市教育委員会や乳幼児教育センターと合同で企画・運営した合同研修会は集合型で実施し、市内の小中高等学校及び特別支援学校からだけでなく、就学
		外部専門家、通級指導教室担当者との連携を強化し、協働した巡回教育相談を行う。	A	A		
		舞鶴市教育委員会、幼稚園・保育所課と共催した『特別支援教育合同研修会』を充実させ、特別支援教育コーディネーターのスキルアップに寄与する。	A			
		関係機関と地域特別支援連携協議会を構成し、支援状況を共有し、機関連携を強化する。	B			
	北部の地域支援センターと連携し、情報共有を行うとともに、地域支援コーディネーターのスキルアップを図る。	「北部地域支援センター連絡会」において、北部の現状・課題を共有するとともに、地域支援コーディネーターのスキルアップを行う。	B	B	B	

	<p>地域支援センターについての校内の理解を深め、関係部署と連携して校内の支援力の向上と人材育成を行い、センター機能の充実を図る。</p>	<p>校内巡回相談員との連携を密にし、巡回相談員のスキルアップを図るとともに、スタッフ会議、校内の研修会を充実させ、専門性の向上を行う。</p>	B	B	B	<p>前の施設や行政機関等から、特別支援教育に関わるコーディネーターの職員を中心に多くの参加者があった。合同研修会は2回実施した。1回目の研修会では、「外国につながる」子どもたちへの発達支援についてなど、広く周知することができた。2回目の研修会では、本校の地域支援コーディネーターが講師となり、「発達に特性のある子どもの保育・教育・療育で心がけること」と題して講演を行い、幅広いニーズに合った内容で、地域の支援力向上に貢献した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域特別支援連携協議会」では、「切れ目ない支援～ステージ間移行における関係機関の連携～」をテーマに医療機関からの課題提起を受けて協議を行い、各関係機関における支援状況について情報共有を行い、各関係機関の連携を促した。 ・「北部地域支援センター連絡会」では、各地域支援センターにおける教育相談等の現状や地域の課題等の報告・協議を行い、またケース検討会を通して地域支援コーディネーターのスキルアップにつながった。 ・校内巡回相談員と協働した巡回相談の実施、合同研修会への参加や研修を通して、適切なアセスメントの視点について学び合い、課題点や大切にしなければならぬ点について共有でき、スキルアップにつながった。 ・スタッフ会議での研修・協議を通して、今後さらにスタッフ各自のスキルアップにつなげていく必要がある。 ・校内の関係部署と連携し、「発達」についての研修会を校内の全教員向けに実施し、人材育成に寄与した。
事務部	<p>児童生徒が、深い学びを実現できるよう支援する。</p>	<p>学校施設の維持管理及び学校環境の整備を行い、学校機能の維持向上に努める。</p>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備において安全上気になる箇所については、状況等を教職員間で共有しながら、適切に対応することで学校環境の維持管理に努めた。

		教材教具の新規購入や更新により、学びがより深いものになるよう支援する。	B	B		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員への呼びかけにより、電気使用量が前年度から約1割程度削減することができ、予算の有効活用につなげることができた。 ・教材教具の新規購入や更新については、限られた予算を効果的に執行できるように各担当と調整し執行することができた。
--	--	-------------------------------------	---	---	--	---

<p>学校関係者評価委員会による評価</p>	<p>学校運営協議会委員からの評価（ポイント）・池内地域の自然に触れてほしい。夜や日曜日開催なので難しいが、夏や秋の地域の祭りにも参加してほしい。地域の住民は児童生徒たちを受け入れることができる。・主治医訪問などの際に、担任の先生から学校での様子を聞かせてもらっている。担任の先生たちは、薬のことや症状などについてよく勉強をしている。・担任の先生や、養護教諭の先生と病院はしっかりと連携がとれている。・若い先生たちが多く、活気が伝わってきた。学校のエネルギーを感じた。「何を大切に、何を学んできたか」ということを知った上で、施設への受け入れをしたい。・福祉の立場から、子どもたちの将来、生涯にわたる漠然としたイメージを伝えることはできる。・特別支援学校では、「コミュニケーション力」を育ててほしい。・恵まれた環境にあり、地域の方々に受け入れられているという、人間関係の温かみを感じた。・苗から栽培して染色をするという本校での藍製品づくりに、「ストーリー」を感じた。・交流及び共同学習を、5年生の「総合的な学習の時間」に位置付けて取り組んでいる。交流だけでなく、次の取組につなげていきたい。・中学部が取り組んだ「地域清掃」では、びっくりするくらい生徒たちが頑張っていた。一生懸命最後まで取り組んでいた。・可能性を発掘して行ってほしい。興味のあること・やりたいことを伸ばして行ってほしい。本人の成長につながる事が大切である。・持続可能な取組・交流を今後も一緒に続けていきたい。・保護者が我が子の進路について主体的に行動されている（遠距離にある施設・事業所も視野に入れて探している）ことが、よく分かった。・小学部が取り組んだ「にこにこチャレンジ」（日常生活の中で一人一人が目標を立てた取組）は、将来子どもたちが成長した際に、「跡」となって見える取組だと思った。・高等部製品販売会の記事を見た。生徒たちの自信がつく、よい機会となっていると感じた。・教職員の働き方改革の現状を考えれば、今後は保護者からの働き掛けや協力が必要となってくる。保護者が主体となっていかなければならない。</p>
<p>向けた改善の方向性</p>	<p>学校関係者評価を受け、また国及び府が示す方向性や各分掌のまとめを受けて、以下のことを重点的に取り組む。</p> <p>（1）学習指導要領の趣旨に基づき、12年間の系統性のある教育課程編成の検討を行うとともに、ICTを活用した学習指導の充実、障害特性に応じた指導の充実等、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりをより一層推進する。</p> <p>（2）地域の関係機関との連携を強化し、体験的な学習や職場体験・実習の機会拡大、職業教育の推進等、キャリア教育・就労支援等の充実を図る。</p> <p>（3）コミュニティ・スクールの推進等により、地域とつながり、社会と目標を共有し、社会に開かれた教育課程のもと、児童生徒に「生きる力」や「働く意欲」を育む。さらに、交流及び共同学習の新たな展開等を通じて、児童生徒の力や可能性等を積極的に広く地域へ発信することにより理解啓発を進め、個に応じた社会参加・社会貢献の機会の充実を目指す。</p>

(4) 府北部地域における特別支援教育の相談支援の拠点校として、「トータルサポートセンター (TSC)」は、他の地域支援センター等と連携し、地域の相談支援力の向上に努める。

具体的には、

【安心・安全の学校をつくるために】

児童生徒にとって安心・安全な環境を構築するために、まずは日常的な安全点検が欠かせない。さらに危機管理体制を整備していく。事故発生時には、スピード感をもって対応し、事後の再発防止に向けた取組に生かせるよう、全校で情報共有・共通確認を徹底することを確認する。

【進路希望の実現のために】

児童生徒の「ゆめ (進路希望)」実現のために、関係機関と連携を図り、進路先の開拓や卒業後の支援ネットワークづくりを進める。教務部やPTAと連携し、福祉事業所フェアの実施を計画していく。

【客観的視点をもちながら指導・支援する】

児童生徒の指導にあたっては、複数担任制のよさを生かして、一部の偏った考えによる指導をせず、学習指導要領の趣旨に基づいた客観的視点をもちながら指導していく。

【働き方改革を進めるために】

働き方改革をより一層推進していくために、各分掌等において業務の平準化に取り組んでいく。また、衛生委員会と連携して具体的な改善策を検討・実施していく。

【新しい時代に必要となる資質・能力の育成のために】

「つけたい力を明確にした授業づくり～読もう・使おう学習指導要領！活用しようICT！～」の研究主題のもと、学習指導要領を丁寧に読み・活用し、主体的・対話的で深い学びの実現につながる授業づくりについての授業研究を進めることができた。その一方でICT活用については個人差もあり、すべての教員が活用できてはいなかった。次年度は、全ての教員がICTを活用して授業研究を実施し、ICTを効果的に活用できることを目指していく。

【社会や地域とつながるために】

学校運営協議会からの意見を受けて、各学部とも社会や地域とのつながりを深める取組を計画し、「温もり」のある地域の人々に包み込まれているという感覚でいきいきと活動できるようにしていく。「あたたかい舞鶴」づくりに貢献する。